

講義日：2019年1月9日（水）

講師：浅田正一郎（日本宇宙フォーラム）

講義タイトル：宇宙ビジネス

講義概要

本講義では宇宙ビジネスの最前線について解説した。

まず、世界における宇宙ビジネスの経済規模（38兆円/年）について、その内訳と共に紹介した。一般的には宇宙ビジネスと聞くとロケットや衛星などのハードウェア開発が挙げられがちであるが、経済規模としてそれらの占める割合はごく限られており、インフラの提供や利用サービスが主要となっていることを指摘した。

次に伝統的な宇宙ビジネス（Established Space）として、(1)静止軌道上の通信・放送衛星、(2)衛星測位システム、(3)光学・レーダー地球観測データ、(4)打ち上げ輸送サービスの現状をそれぞれ紹介した。

宇宙ビジネスの最前線として、新たな宇宙ビジネス（New Space）について解説を行った。新たな宇宙ビジネスが勃興している理由として、Space-Xなど先人の成功例があること、衛星小型化などによる参入障壁の低下が進んでいること、ビッグデータ分析やAI技術などによりデータ処理技術が向上していることを挙げ、それぞれの世界情勢を紹介した。また、拡大する宇宙ビジネス領域を大分類で3個（A: 深宇宙(月およびそれ以遠)、B: 地球近傍軌道、C: 打ち上げおよび地上）と、小分類で10個（A-1: 資源開発、A-2: 惑星間飛行、B-1: 研究開発、B-2: 衛星コンステレーション、C-1: 通信及び追跡、C-2: データ解析、C-3: 宇宙機開発、C-4: 打上げサービス、C-5: 民間旅行、C-6: その他）に分けて、それぞれで活躍する宇宙ベンチャー企業の具体例を挙げて解説した。特に、この全ての分類で日本の宇宙ベンチャーが活躍していることを指摘し、日本の宇宙ベンチャーへの投資額は米国に次いで世界第二位であることを示した。

最後に、日本政府の宇宙ベンチャー振興策について、政府の姿勢とベンチャー育成のための支援パッケージとともに紹介し、宇宙政策として描かれている宇宙ベンチャーの成長過程における支援の全体像を説明した。

これらを通し、宇宙ビジネスの最前線では、世界でベンチャー企業が続々と参入して既存産業の破壊と創造が進んでおり、日本政府も振興策を次々と打ち出し日本の宇宙ベンチャーの活躍も始まっていることを解説した。